

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森
Tel: 04-7132-8800
Fax: 04-7132-8806
Email: info@konbukuroike.com
URL: http://www.konbukuroike.com

2018年8月

第52号

主な予定

スタンプラリー

10月21日(日)

9:30~15:30

キノコの観察会

10月21日(日)

10:00~12:00

於: 管理棟前

ミニコンサート

10月21日(日)

13:30~15:30

於: こんぶくろ池前

新ハンドブック完成にあたって

ハンドブック改定検討委員会 大貫 遵子

2011年に第1刷を発行した旧ハンドブックが、2016年に在庫切れとなり、その製作委員であった私としては、なんとか新しいハンドブックを発行できないかと思っていました。そこで、前回助成を受けたプロ・ナトゥーラ・ファンド(以下PNファンド)に打診したところ、改訂版であれば申請は受理されるとの回答を得ました。しかしながら、助成金を受けてのハンドブックの作成は、素材となる写真集めや、構成の検討、デザイン案作成はもちろん、助成金の管理から最終的な報告まで、とても一人でできるものではなく、多くの協力者を必要とする作業であることから、現NPOの組織においては困難が予想されました。しかし、東京大学の福田健二先生の指導もあり、NPO理事会の承認を得て検討委員会を組織し、編集をすすめてきました。

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

自然の森 こんぶくろ池
自然博物館
ハンドブック

Konbukuro-Ike Nature Park

pro natura
Foundation Japan

このハンドブックは、公益財団法人自然保護助成基金 第28期(2017年度) プロ・ナトゥーラ・ファンド助成によって作成されました。

NPO法人 こんぶくろ池自然の森

多くの関係者のご協力で、本ハンドブックが完成いたしましたのでここに報告するとともに、愛される「こんぶくろ池自然博物公園」としての記録と保全が今後一層進むことを心から望みます。

尚、同時に A2 版リーフレットも改定しておりますが、完成は 9 月下旬を予定しています。

1. 助成金申請について

理事会の承認を得て、公益財団法人自然保護助成基金 第 28 期 (2017 年度) PN ファンド助成・国内活動助成に申請書を提出し、75 万円の助成金が決定。

2. 編集委員会について

下記メンバーにて発足。

責任者 (申請者) 大貫 遵子

会計責任者 橋本谷 弘司

副責任者 (編集長) 市川 清

委員 上田 真佐江 岡本 昇 萩原 秀夫 山下 紀子

3. 編集委員会の運営について

2017 年 11 月 18 日～2018 年 7 月 29 日 合計 34 回の編集会議を実施。

作成原稿の分担、写真の選定、内容の検討、校正の会議をし、全員で検討を重ねた。

4. パンフレット編集方針

- ① 子供から大人まで楽しんで読めるハンドブックを目指す。
- ② 写真は、基本的には前回のハンドブックの写真を使用するが、今回は説明文を入れるのでレイアウト上、写真の差し替えを行うことがある。また、園芸種、絶滅等が考える種については、削除する。
- ③ 改訂版であるため、良い写真があれば差し替えを行うが、必要最小限にとどめる。
- ④ 新しい種名を追加掲載する。
- ⑤ ページ数は全カラー 64 ページに仕上げる (旧ハンドブックは 48 ページ)。
- ⑥ コラムにおいて〔持ち込み、持ち出し禁止〕を記載する。

5. リーフレット編集方針

- ① 2018 年 4 月より公園の開園時間、休園日の取り扱い及びマップ等が変更されていることから、修正する。
- ② 現行のサイズは A3 版であるが、この度のリーフレットの作成に際し、助成の条件の紙面サイズが A2 版であることから、そのサイズに変更せざるを得ない。
- ③ 内容のボリュームが、現行リーフレットの 2 倍になるため、公園の紹介内容を見直し、より充実したものに修正する。

6. リーフレット掲載概要（骨子）
- ① こんぶくろ池自然博物公園の概要紹介
 - ② NPO 法人こんぶくろ池自然の森の法人紹介
 - ③ 連絡先及び交通アクセス
 - ④ 民話
 - ⑤ これまでの歩み（新規）
 - ⑥ 植物調査（標本）（新規）
 - ⑦ こんぶくろ池自然博物公園とはどんなところか」について、詳しく説明（新規）
 - i. 公園・森の成り立ちから現在まで
 - ii. ゴルフ場があったふじ池等周辺
 - iii. 水が湧き出るこんぶくろ池周辺の機構と現状など
 - ⑧ 野馬土手と飛行場跡の遺跡（従来のハンドブックより統合）

上記ハンドブック、リーフレットを通じて、保全活動への参加を呼びかける。

以上

新入会員紹介

中川 将さん



参加動機：地元には森があり池もあり、そのような貴重な場所を守っていかれたらと思い入会を決めました。

貢献できそうなこと：パソコン、造園・園芸、調査

取り組んでみたいこと：今よりさらに魅力的な場所にしたい。自分自身も親に言われるまで知らない場所だったので、もっと多くの人に知ってもらいたい。

趣味：サッカー・野球観戦、一眼レフカメラ、釣り

編集者註：先月紹介した中川望さんの息子さん。今回親子で入会いただきました。当 NPO にとって最若手の会員です。

いろいろな魅力の越後・陸奥の山

百花繚乱「花」と「--」の山旅

市川 健治



鷲ヶ巢山

越後は三面川「縄文の遺跡」上にスクッと立ち上がり、我々の登高意欲をくすぐる容姿の山がある。標高は1,093mと決して高くはないが、山頂に達するまで半端ない登り下りが繰り返され、中々その頂にたどり着けない難しい山「鷲ヶ巢山」である。

この山は、アップダウンの他にもう一つの難題を持っていて、登る人を遠ざける。それは「ヤマヒル」の沢山住むとても登りたくない、登りにくい山なのである。

私はこの美しい山容の頂を目指し、ゴム長を履き塩水スプレー持参で臨んだ。登山口から山道に入ると案の定、私の足元にアイツが忍び寄る。一步出す度に足元を確認するので、時間がかかり前に進まない。高度

も上がり、吸血鬼もようやく少なくなると、今度は道も判然としない密藪が行く手を阻む。

結局、被害は足にばかり気をとられてしまい、手の指付け根を食われて血が止まらないことになった。だが、これも自然の一部と思えば、この美しい自然を守るための防御策とも考えられる。

藪の急登を5時間、ようやく山頂の石祠に到着したが残念ながら霧で何も見えない。小休の後、下りも同じくらいの時間をかけて降りたが、下りは登りと比べて足元に寄ってこないと知った。

三面川の遺跡は、ダムの底に沈んでしまったが、鷲ヶ巢の自然は残ったと感じた。

次に岩手の明峰「早池峰」に向かう。

この山は高山植物が咲き乱れ、言ってみれば女性的な山で、男性的な「岩手山」と対照的な山容を見せているが、標高は1,971mあり中々急坂の魅力的な山である。何と云っても、ここにしか咲かない固有種の高山植物があって、花好きの登山者にはあこがれの山となっている。



チングルマ

その代表は「ハヤチネウスユキソウ」「ナンブトラノオ」「ナンブイヌナズナ」などで、特にウスユキソウは日本のエーデルワイスと呼ばれ登山客を惹きつける。我々は、前夜は峠下の避難小屋に宿泊し、英気を養いながら明日の好天を祈り、杯を交わした。

梅雨の中休みとなり、風は強いが快晴に恵まれ、早朝5時、まだ一般登山客が到着する前に出発する。ここは自然を汚さないために、携帯トイレ持参が義務付けられており排便排尿には気を使う。



ハヤチネウスユキソウ

少し登ると森林限界となり、強風の威力が更に増し、吹き飛ばされそうになりながら5合目に来ると、いよいよお目当てのお花畑が広がった。白い淡雪を乗せたようなあの「ハヤチネウスユキソウ」もあちこちに現れた。我々は思わず立ち止まり、赤・青・黄・白のお花畑に目を奪われた。

約2時間で神社のある山頂に到着すると、風も収まり庭園風の残雪もある景色の中で、ゆったりとした時間を過ごすこととなった。

下り始めると、シャトルバスで送られてきた登山客が数珠繋ぎで登ってきて、待ち時間も多くなり中々下りられない。この山の花の魅力は偉大で、多くの老若が押し寄せている。この状況を見て、我々を含めてオーバーユースが改めて心配になった次第である。

沢山の人が入ると、ボランティアの方の指導には限界があり、より登山者自身が自覚を持って、このすばらしい自然を永遠に後世に残せるようにしなければならないと、強く思った次第である。



ナンブイヌナズナ



ミヤマアズマギク

毎月第1日曜日に行っている理事会の討議事項（抜粋）を、こんぶくろ池通信にて会員の皆さんに報告していきます。尚、議事録については管理棟に保存していますので、いつでも閲覧が可能です。

2018年8月5日（日）10:00～13:00

出席理事：石渡、市川、上田、岡本、萩原

1. 課題、提案、検討事項

① ハンドブックの完成版提示

→500円を目途に寄付を募り配布、在庫管理。配布先（教育委員会、県プラなど）検討。管理担当者を決める。

② パンフレット作成の進捗状況など説明

→A2版両面印刷、内容を今後詰める。

③ 来年3月末をもって役員の任期満了、次期役員の改選方法は？

→個別に打診をする。次回検討。

④ 議事録の署名・押印、日時、場所、理事総数、理事氏名、結果の記録

→8月議事録から記載内容を改め、次回理事会で署名・押印。

〔その他〕

理事会議事録の会員への報告

→議事録の抜粋内容を「こんぶくろ池通信」に掲載（萩原）。

→議事録押印版を事務所にファイリング（石渡）。

2. イベント関係

① カブトムシ観察会

→8/4午前、トラップづくり、午後設置 8/5 4時から観察会実施。20家族参加（25組キャンセル待ち）市川、上田、萩原、古橋

② スタンプラリー、ミニコンサート、きのこ観察会

→ミニコンサート出演依頼し、和田氏（東風笛）、小早川氏（フルート）より応諾の回答。きのこ観察会（大作氏へ依頼済み）。

3. その他

昆虫談話会より、「これまでの昆虫相調査から、明るい森に生息する昆虫よりも暗い森にすむ昆虫がよくみられ、全体的に森が暗い印象がある。」と聞いた。広葉樹の萌芽更新を図りたい。

→アドバイザー会議での実地調査適宜提案、時間をかけ先生方の意見集約を目指す。

- ① 会員より「数年前の千葉大の調査時よりズミの個体数が減っており、5年、10年単位での再生に取り組みたい。次回の理事会までに提案書を作成し、理事会の承認とアドバイザーの先生方の了解のもと進めたい。」との提案があり。

→提案書を作成するなら、「柏市みどりの基金」や「ちば環境再生基金」を利用してはどうか。



突然うれしいニュースが飛び込んできました！

8月3日に松本重誠さんに女の子が産まれました（写真は産まれたばかりの赤ちゃんを抱く松本さんです）。

今年から日本に戻って来られて、新しい生活をスタートしたところですが、赤ちゃんも産まれて益々プライベートが充実しそうですね。

しばらくお忙しいと思いますが、また落ち着いたら奥さんと子供と一緒に遊びにきて下さい。

編集後記

今年の夏は本当に異常な暑さですね。そもそも桜が咲くのがすごく早かったですし、関東は雨もほとんど降らないままに6月末には梅雨明け宣言が出ました。雨が少ないために弁天池は早くから干上がってしまい、そのせいか蚊が森の中にほとんどいません。蚊は35度を超えると活動できないからでしょうか？ちなみにカブトムシも6月には成虫が現れていましたので、7月末にはほとんどシーズン終わったかもしれません。カブトムシのいる樹液の出る木にも、例年ならスズメバチが数匹いるのですが、今年はスズメバチもあまり見かけないですね。現在昆虫談話会の方が朝から夜遅くまで昆虫調査をしてくれていますが、昆虫の数は相当少ないようです。

我々が一所懸命こんぶくろ池公園の多様性を守っても、温暖化の影響なのか気候が大きく変わると、一気に生態系や植生に影響が出てしまいます。こんぶくろ池公園の自然を見ていると、人間も含めて本当に微妙なバランスの上に生物が存在しているのがよくわかります。地域の森を見ると同時に、地球全体の環境にも配慮していかなければなりません。（萩原秀夫）